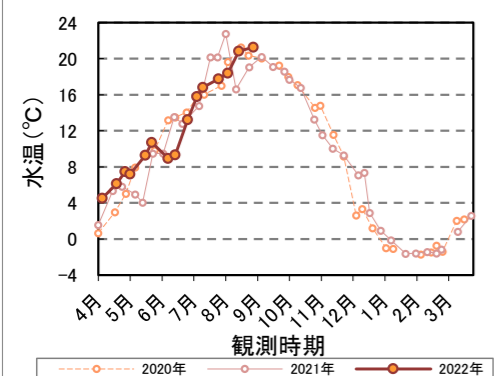


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2022年8月)

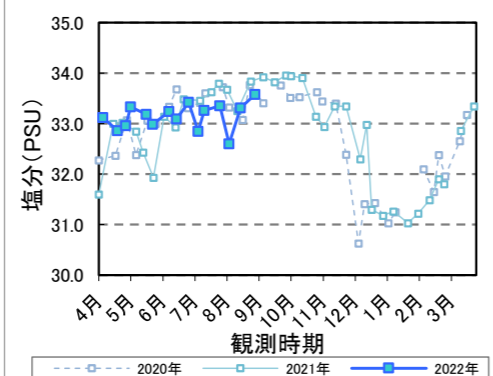
海洋環境データ

※観測：紋別市

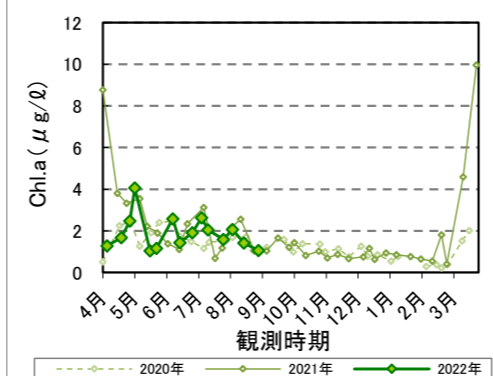
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



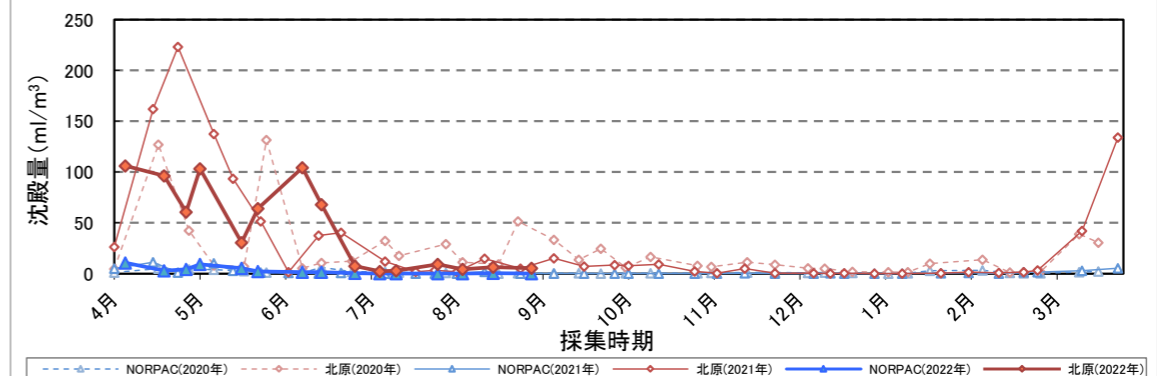
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

	8月5日	8月16日	8月30日
平均水温 (°C)	18.4	20.8	21.3
平均塩分 (PSU)	32.6	33.3	33.6
平均Chl.a (µg/l)	2.1	1.4	1.1
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 0.2 (北原式定量ネット) 4.3	(NORPACネット) 0.4 (北原式定量ネット) 6.3	(NORPACネット) 0.2 (北原式定量ネット) 5.3
主な出現種	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia omorii [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ○Eurytemora pacifica [++] ◆ (枝角類：ヨリテフ・バ・ソウカ) [汽水性] ◎Evadne nordmanni [++] (枝角類：ノドマエシシノ) ◎Podon leuckarti [++] (枝角類：オビシシノ) <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia hudsonica [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ◎Copepoda (nauplius) [++] ◆ (枝角類のノープリウス幼生) ◎Paracalanus parvus s.l. [++++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ○Pseudodiaptomus marinus [++] ◆ (枝角類：ヨシドテイブトス・マリス) ○Eurytemora pacifica [++] ◆ (枝角類：ヨリテフ・バ・ソウカ) [汽水性] ◎Oithona similis [++] (枝角類：オビシシノ) ◎Copepoda (nauplius) [++] (枝角類のノープリウス幼生) 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎Acartia omorii [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ○Mesocalanus tenuicornis [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ○Clausocalanus pergens [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ◎Paracalanus parvus s.l. [++++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ◎Oithona similis [++] (枝角類：オビシシノ) ◎Copepoda (nauplius) [++] (枝角類のノープリウス幼生) <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎Oithona similis [++] (枝角類：オビシシノ) ◎Copepoda (nauplius) [++] (枝角類のノープリウス幼生) 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎Evadne spinifera [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) ○Pseudevadne tergestina [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) ○Penilia avirostris [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) ◎Acartia omorii [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ◎Clausocalanus pergens [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ◎Paracalanus parvus s.l. [++++] ◆ (枝角類：オビシシノ) [暖水性] ◎Oithona similis [++] (枝角類：オビシシノ) ◎Copepoda (nauplius) [++] (枝角類のノープリウス幼生) ◎Bivalvia (larva) [++] (二枚貝類の幼生) ○Penilia avirostris [++] ◆ (枝角類：オビシシノ) <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎Bivalvia (larva) [++] (二枚貝類の幼生) ◎Copepoda (nauplius) [++] (枝角類のノープリウス幼生)
備考	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 腐植質やや多い	(NORPACネット) 腐植質やや多い (北原式定量ネット) 腐植質・泥質分多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻・腐植質やや多い

出現量の多かった種類

- Acartia omorii (枝角類：オビシシノ) 体長：♀0.9-1.3mm, ♂0.8-1.2mm. 九州以北の北西太平洋沿岸に分布。関東以南では春に内湾や沿岸で多く見られる。
- Bivalvia (larva) (二枚貝類の幼生) 二枚貝類の発生途中の幼生。二枚貝類は一般にトロコフォア幼生、ベリジャー幼生の2つの幼生期をもち、浮遊生活を送る。ベリジャー幼生期の初期はD字型をしているため、「D型幼生」とも呼ばれる。
- Paracalanus parvus s.l. (枝角類：オビシシノ) 体長：♀0.8-1.0mm, ♂0.7-1.0mm. 全世界の沿岸域に分布。日本では各地沿岸に分布するカラヌス目産物の1種で、本州中部では春に、東北以北では夏に多く見られる。
- Evadne nordmanni (枝角類：ノドマエシシノ) 体長：♀・♂0.2-0.7mm. 日本では太平洋、日本海、瀬戸内海に分布。後部が三角形で「扇帽子(えし)」のような形をしていることが特徴。殻角を動かしてビョンビョンとはねるように移動する。
- Oithona similis (枝角類：オビシシノ) 体長：♀0.7-1.0mm, ♂0.6-0.7mm. 各地の内湾、沿岸、外洋で普通に出現。日本各地の沿岸にみられる代表的な種。各大洋に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。
- Evadne spinifera (枝角類：オビシシノ) 体長：♀0.5-0.8mm, ♂0.5-0.7mm (推定種)。日本では太平洋・日本海沿岸、瀬戸内海に分布。
- Copepoda (nauplius) (枝角類のノープリウス幼生) カイアシ類の発生途中の幼生。殻皮を繰り返し脱ぎ捨ててノープリウス幼生、コメダイト幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚発生時には、餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。
- Podon leuckarti (枝角類：オビシシノ) 体長：♀0.5-0.9mm, ♂0.5-0.8mm. 日本では太平洋・日本海沿岸、瀬戸内海に分布。

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※8月30日の水温、塩分、Chl.aにおいて、水深0mで極端な値が見られたため、平均値を水深1~9mの値とした。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)、泥質分(泥でできた小型の塊状物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献：

①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③国市立ミクロ生物館 監修(2011)日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]

④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.

⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.

⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門[恒星社]⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.

⑧西・加藤(2002)日本産カムリコカイ科多毛類の分類について. *タクサ*, **13**, 5-17.⑨今島(1996)環形動物 多毛類[生物研究社]⑩日本プランクトン学会 監修(2011)ずかん プランクトン[技術評論社]⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]

⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌*, **26** (9), 877-881.⑬伊藤・水島・久保田(2005)駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学*, **3** (1), 19-35.

⑭大越・野村(1990)穿孔性多毛類 *Polychaeta* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌*, **56** (10), 1593-1598.⑮津水・久保田・平野・リンズィー(2015)日本クラゲ大図鑑[平凡社]⑯奥谷(2017)日本近海産貝類図鑑【第二版】[東海大学出版部]

⑰大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野(2007)移入種か、在来種か? : 清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する. *日本プランクトン学会報*, **54** (1), 30-38.